

お正月やお祝いごとなどの特別な日のための器を鮮やかに彩り、その場に華やぎを与える漆。漆は日常生活とは少し遠い特別な存在、というイメージが強いかもかもしれません。しかし、実は漆は器から住居まで、さまざまに用いられ、一万年以上も昔から私たちの日常生活を支えて来ました。今回のワークショップでは、漆芸作家の坂田太郎さんを講師にお迎えし、漆を使った平面作品を制作して、「日常を彩る美」としての漆の魅力に迫ります。漆を塗った板を、伝統的な素材に加え、卵の殻やビーズなどの身近な素材で装飾した作品は、毎日の生活で食器としても、お部屋のインテリアとしても楽しむことができます。器から建築まで、漆を巡って多彩に活躍されてきた坂田さんのお話を聞きながら、身近な「用の美」としての漆に親しんでみませんか？

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム
対象：一般（中学生以上）
定員：15名 ※事前申し込み制
参加費：1000円

二〇一九年一月一四日（月・祝）
アーティスト・ワークショップ
一三時～一六時三〇分

漆で作って、

漆と暮らす

講師 坂田 太郎（漆芸作家）

申し込み方法：

国立新美術館ホームページ (www.nact.jp) の申し込みフォームより、

2018年12月6日（木）12:00から12月21日（金）12:00までの期間に申し込み手続きを行ってください。

※申し込みフォームを公開する時間は予告なく変更になる場合があります。

※応募者多数の場合は抽選で参加者を決定いたします。

※参加の可否については、12月21日以降にEメールでお知らせいたします。

※必要事項に記入漏れがある場合、受付をお断りすることがあります。

※参加者ご本人以外の方のご見学、当日参加は固くお断りします。

※申し込み時にご記入いただいた個人情報をワークショップ実施以外の目的で使用することは一切ありません。

お問い合わせ先：TEL 03-5777-8600（ハローダイヤル）

【漆のかぶれについて】

漆に接すると、「かぶれ」が引き起こされることがあります。この「かぶれ」は漆を直接肌につけないことが最善の予防策となりますが、特定の物質に対して強いアレルギーをお持ちの方や、肌の弱い方は、参加を慎重にご検討下さいますようお願いいたします。

講師：坂田 太郎（さかた たろう）

1969年福岡県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻漆芸修了。グラフィック作品《ジャポニスム》がデザイン誌『アイデア』に掲載（1991年）。作家としては日本伝統漆芸展入選（1996年、1998年）をはじめ、日韓工芸展（2001年）、女子美術大学陶芸・メタル・漆芸展（2012年）など活動歴多数。「表千家茶道教室・蒔絵ワークショップ」（2010年）、「HANDS DO PROJECT 東急ハンズ×播与漆行 伝統の技術で器をデザイン、金継ぎ・蒔絵体験」（2013年）など全国各地でワークショップや研修会を開催し、幅広く活躍している。現在、漆&Sign Design「1009社」代表。



photo: 関野 温



NIHON SEKKEI

Canon

国立新美術館の教育普及活動は、株式会社 日本設計、キヤノン株式会社より御支援をいただいています。



THE NATIONAL
ART CENTER, TOKYO
国立新美術館